

「ミャンマー・国立リハビリテーション病院に対する障害児用中古車椅子供与計画」
事業完了報告（写真）

供与先である国立リハビリテーション病院



ミャンマーで唯一のリハビリテーション病院がヤンゴン郊外にある。
現在脳性マヒや小児ポリオによる障害児が年間累計 250 名が治療に通っているが、車椅子はだれも乗っていない。病院からの要請で 9 月下旬に 40 台を船積みして届けた。



障害児が使用する車椅子は物理療法士によって適合するものを確認して渡している。
保護者とは貸与契約を結び、使われなくなったら返却して次の子どもに使われる。



今後の維持管理について Dr. Win Zaw 病院長と会議を行い、管理責任者を決めて、在庫管理方法と保護者との契約手続き、1 年後のモニタリングの報告内容について確認した。

当会は11月11日にリハビリ病院講堂で保健省局長代理と幹部、ヤンゴン市行政幹部、在ミャンマー日本大使館参事官及び担当官、さらに障害児の保護者と子ども達合わせて70名を招いて引渡式を行った。保健省幹部や関係者も障害児の生活改善と筋肉発達に役立つ日本の子ども用車椅子を見るのは初めてで品質も好いのに驚いていた。初めは大人用のような介護用か搬送用と思っていたようだ。



保健省局長代理（右から2人目）、日本大使館参事官（左端）、当会理事の挨拶のあと子どもと保護者をステージに招き、すでに適合フィッティングした車椅子を手渡した。



通院している障害児と母親も式に参加。



保健省幹部やヤンゴン行政幹部が列席。



ヤンゴン市福祉局幹部や保健省幹部がそれぞれ子ども達に車椅子を手渡した



式の参加者は日本のNGOのユニークで心温まる人道支援だと高く評価してくれた。子どもを車椅子にのせてあげると笑顔や身振りであれしさを表現し、そのたびに会場から感動と喜びの大きな拍手が沸いた。



引渡式の後、子どもと保護者達が一堂に会して、当会にお礼をいってくれた。いままで背負ったり、抱いて通院、家では床に置かれていた子ども達が車椅子で自由に動けて、家族の負担も軽減され生活が変わることに喜んでいた。

なお、当会が送った全ての車椅子には日の丸に当会ロゴのあるステッカーと管理番号を貼ってあり部品の供給の際の参照番号としていること確認した。